

女性懇談会進捗状況(福岡地区)

※ 懇談会で出た質問全てが掲載されているわけではありません。

※ 答弁者の役職名は開催当時のものです。

予防接種の拡充について

平成 22 年度

健康医療課 1054

質問 (福岡地区住民)

これからの子どもたちを守っていくのは予防接種は大事ですが、肺炎球菌ワクチンについても8割防げるので今後はお願いしたい。

答弁 (市長)



子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンが急がれるものと認識している。国がやっていく部分に続く部分、優先順位の次のものに市の金をつぎ込んでいく部分、国の予算を見ながらH23予算を検討していく。重篤度の高い方からやっていく方針。

実施済・実施中の事項



・平成23年度から子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン接種、小児用肺炎球菌ワクチン接種については、医療機関委託により実施しています。
・個人負担額については無料で実施しています。

今後の計画等

予定日

高齢者サロンへ補助金を

平成 22 年度

高齢支援課 1058

質問 (福岡地区住民)

・がんばる地域サポート事業、3年で自立しなければならぬが、3人のボランティアで高齢者サロンをやっており、どんどん増えているので補助金が出るようにしてほしい。

答弁 (市長)



高齢者サロンは必要性が高いと思われる。補助金継続については、補助金の内容は増、減について検証が必要。ゼロベース予算として積み上げたい。合併後10年で財政は厳しくなる。減らす部分もある、痛みも分かち合っていたきたい。効果のある部分については福祉部門という方向で検討したい。

実施済・実施中の事項



現在地域でのボランティア活動支援及び高齢者サロンへ支援については、社会福祉協議会が窓口となり、地域での活動の相談・支援を行って頂いている。

今後の計画等

予定日

聴覚障がい者への配慮

平成 22 年度

障害援護課 1061

質問 (福岡地区住民)

要支援者のリストを作って消防署と協体制をとったり、消防署と交渉し電話が無言でも出動してもらえる。一方で交通事故では警察に電話ができない方からサポートの要請あったが、警察が車にも乗せず通訳をさせてくれなかった。手話講座の継続もしてほしい、消防署でも講習を受けてもらえたが、警察や、市民の窓口でも手話通訳等研修してほしい。

答弁 (市長)



社会全体としての姿勢にかかわるもの。啓蒙活動にも関わるが、少なくとも公共サービスの側での対策は必要。福祉については、狭く深く、声が少なくても助けが必要なところにサポートをと考えている。ノーマライゼーションの考え方はあるが、市全体には行き届いていないので、粘り強く啓蒙していく。障がいについては、出来ないことは社会的にどうバックアップを、出来る部分には本人にがんばってもらおう。障がいを持った子どもの教育も基本的に同じ考え方。

実施済・実施中の事項



・平成22年度に手話入門教室を実施しました。
・窓口対応として、1か月2回(第2、4木曜)に手話通訳ができる人を臨時雇用しています。
・平成23年度 手話基礎教室を開催しています。
【内容】期間:5月12日～12月15日 毎週木曜日
講座31回で現在20回目を実施している。

今後の計画等

・平成24年度はスキルアップ教室開催予定です。

予定日

避難マニュアルの作成について

平成 22 年度

防災安全課 1062

質問 (福岡地区住民)

3年前に聴覚障がい者協会と手話サークルでマニュアルを作って消防署に渡した。障害者への対応が不足するので作成した。また新しく避難マニュアルをつくるなら、障がい者の意見も入れてつくっていただきたい。

答弁 (市長) ▲

要援護者の支援、自主防災組織、区長の取り組みでまず要援護者の把握からどうサポートするかを組み立ててもらおう。どう組み立てているか詳しく説明できないので確認して別途お答えする。入っていなければ要援護者の支援の意識を入れてやっていく。避難マニュアルでどこまでカバーできるかも問題。マニュアルにないと出来ないでは困るので、支援すべき対象の明確化、何をサポートするか内容を検討すべきと考えている。

実施済・実施中の事項 ●

各地域に自主防災会ごとの避難マニュアルの作成を呼びかけているが、全ての自主防災会で作成されていない状況です。
今後は、9月議会で制定された「中津川市災害に強いまちづくり条例」により、自助・互助・公助が連携して避難マニュアルの作成や要援護者の支援対策を進めます。

今後の計画等

平成23年度中に「災害に強いまちづくり条例」を具体化するために「災害に強いまちづくり計画」を作成します。
平成24年度以降、計画に基づきマニュアル、要援護者支援対策を含む総合的な防災対策を実施します。

予定日

高齢者サロンについて

平成 21 年度

高齢支援課 579

質問 (福岡地区市民)

若い方に参加してもらうためにも人件費の補助をしてほしい。
「あんきなくらぶ」には補助が出ていると聞いた。同じまでとはいかないまでもお願いしたい。

答弁 (市長) △

介護保険を予防の面からうまく活用するのも一つの手段だと考える。活動を活発にするのは良いことなので、どのようなサポートが出来るか持ち帰って検討したい。

実施済・実施中の事項 ×

公的な介護予防事業はその効果や方法について一定の基準等を設ける必要があります。
しかし地域のサロンは在支や、社協事業、その他で地域実情やマンパワーに応じて取り組みやすい形で実施されているため、そういった地域活動を大事に可能な範囲で取り組んでいっていただきたいと考えます。

今後の計画等

予定日

交通弱者について

平成 21 年度

情報交通課 580

質問 (福岡地区市民)

NPOで輸送サービスをしている。市でデマンド方式の輸送を考えてほしい。

答弁 (市長) ○

コミュニティバスがあるが、互助交通を含めて伸ばしていきたい。ファミリーサポートセンターにプラスアルファの新しい制度を組み立てていきたい。

実施済・実施中の事項 ●

平成23年8月阿木地区において互助による市民病院直行便の試験運行による、1年間の互助交通の実証実験を開始しました。
年度内に料金、利用方法、利用者意見などの中間検証を行い、改良を加えながら課題を整理し、本格運行、他地区での実施に向けた検討資料とします。

今後の計画等

平成23年度 阿木地区互助交通実証実験。
福岡地区、神坂地区地元協議。
平成24年度 阿木地区実証実験結果検証。
福岡地区、神坂地区での実施に向けた調整。

予定日